

平成 26 年度事業報告

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

I. 概況

1. 全体景況

政府発表によれば、平成26年度の我が国経済をみると、「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」の「三本の矢」の一体的推進により、緩やかな回復基調が続いているものの、個人消費等に弱さがみられ、年度前半には実質GDP成長率がマイナスとなった。こうした経済動向の背景には、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減や夏の天候不順の影響に加え、輸入物価の上昇、さらには、消費税率引上げの影響を含めた物価の上昇に家計の所得が追い付いていないことなどがあると考えられる。こうした状況の下、経済の好循環を確かなものとし、地方に経済成長の成果が広く行き渡るようにするため、平成26年12月27日に「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」（以下「緊急経済対策」という。）を取りまとめた。雇用・所得環境が改善するなか、経済対策や政労使会議を含む各種政策の効果もあって、景気は緩やかに回復していくことが見込まれる。物価の動向をみると、好循環が進展する中で、消費税率の引上げの影響もあって前年度よりも高い伸びとなっているが、原油価格の低下等により物価上昇のテンポは若干緩やかとなり、消費者物価（総合）は3.2%程度の上昇と見込まれる。

この結果、平成26年度の実質国内総生産成長率はマイナス0.5%程度、名目国内総生産成長率は1.7%程度と見込まれる。

2. 鑄造業界の動向

- (1) 鑄造業の平成 26 年（2014 年）の生産金額（ダイカストを除く）は、1 兆 4,048 億円、対前年比 2.7%増と 2 年連続して増加した。
- (2) 代表業種である銑鉄鑄物の生産金額は、8,457 億円、同 2.2%増と 3 年ぶりに増加、生産量では 3,481 千トン、同横ばい*に推移した。鑄鋼は生産金額が 1,245 億円、同 3.3%減となったのに対して生産量は 184 千トン、同 1.1%増となった。

*平成 26 年から 20 名以上から 30 名以上への統計対象の裾切りが行われたので、これを考慮すると、生産増と推察される。

- (3) 非鉄金属鑄物（ダイカストを除く）は、銅合金鑄物の生産金額が 956 億円、同 9.0%増と 3 年ぶりに増加したものの 3 年続けて 1 千億円を下回った。生産量も 77,088 トン、同 5.0%増となったものの 3 年続けて 8 万トンを下回った。一方、アルミニウム鑄物は需要の 80%が自動車向けであるため 2,825 億円、同 4.0%増と増加した。生産量も 417 千トン、同 0.9%増と 3 年連続して 40 万トン台を継続した。この結果、平成 26 年の全生産額（ダ

イカストを含む) に占める非鉄鋳物比率は 48.4%となった。

表 1. 鋳造品の生産額推移

単位：億円、%

平成(年)	銑鉄鋳物	鋳鋼	銅合金	アルミ鋳物	精密鋳造品	ダイカスト
12(2000)	9,055(102.1)	1,377(109.7)	700(99.5)	2,888(103.2)	471(117.4)	4,655(106.3)
17(2005)	9,130(107.5)	1,434(117.2)	823(98.7)	2,791(107.3)	463(105.5)	6,000(108.9)
20(2008)	10,481(104.4)	1,865(106.7)	1,291(97.5)	3,085(96.3)	600(111.8)	6,968(95.2)
21(2009)	6,771(64.6)	1,328(71.2)	839(65.0)	2,074(67.2)	434(72.4)	4,435(63.6)
22(2010)	8,509(125.7)	1,367(103.0)	958(114.1)	2,631(126.9)	514(118.4)	5,765(130.0)
23(2011)	8,583(100.9)	1,312(96.1)	1,080(112.8)	2,583(98.2)	523(101.8)	5,577(96.8)
24(2012)	8,488(98.9)	1,280(97.6)	960(88.9)	2,744(106.3)	507(96.9)	5,806(104.1)
25(2013)	8,276(97.5)	1,288(100.6)	877(91.4)	2,717(99.0)	519(102.4)	5,687(98.0)
26(2014)	8,457(102.2)	1,245(96.7)	956(109.0)	2,825(104.0)	565(108.9)	5867(103.2)

注 1. 銑鉄鋳物には、鋳鉄管、可鍛鋳鉄を含む。

注 2. () は、対前年比

表 2. 鉄鋳物の生産量推移

単位：千トン、%

平成(年)	合計	銑鉄鋳物	鋳鉄管	可鍛鋳鉄	鋳鋼
12(2000)	4,941(104.2)	3,998(106.2)	580(91.3)	98(96.4)	264(102.6)
17(2005)	5,036(103.0)	4,299(104.8)	403(88.9)	58(74.8)	277(107.1)
20(2008)	5,096(97.1)	4,315(96.2)	434(104.3)	48(90.2)	299(102.0)
21(2009)	3,254(63.9)	2,621(60.7)	404(93.2)	37(77.4)	198(66.4)
22(2010)	4,030(123.9)	3,469(132.4)	316(79.1)	39(104.9)	207(104.3)
23(2011)	4,096(101.6)	3,528(101.7)	300(94.9)	40(102.4)	218(105.3)
24(2012)	4,157(101.5)	3,587(101.7)	330(110.3)	37(92.5)	203(93.1)
25(2013)	4,053(97.5)	3,481(97.0)	344(104.1)	46(124.3)	182(89.7)
26(2014)	4069(100.4)	3,481(100.0)	360(104.7)	44(95.7)	184(101.1)

※注 () は、対前年比

表 3. 精密鋳造品・非鉄金属鋳物の生産量推移

単位：トン、%

平成(年)	精密鋳造品	銅合金	アルミ鋳物	ダイカスト
12(2000)	7,345(111.4)	87,093(105.3)	412,824(104.6)	833,223(109.4)
17(2005)	7,380(97.9)	97,794(92.7)	412,483(103.7)	1,064,866(108.1)
20(2008)	7,532(101.5)	98,782(92.4)	414,004(95.8)	1,093,806(94.4)
21(2009)	4,336(57.6)	75,284(76.2)	291,923(70.5)	758,316(69.3)
22(2010)	5,899(136.0)	79,293(105.3)	386,812(132.5)	980,850(129.3)
23(2011)	6,582(111.6)	83,162(104.9)	383,978(99.3)	930,474(94.9)
24(2012)	6,396(97.2)	79,571(95.7)	420,531(109.5)	1,006,285(108.1)
25(2013)	6,357(99.4)	73,433(92.3)	413,804(101.6)	984,842(97.9)
26(2014)	6,659(104.8)	77,088(105.0)	417,700(100.9)	1,000,260(101.6)

※注 () は、対前年比

II. 協会活動の概要

本年度は、鑄造産業ビジョン第3期（平成25～27年度）の第2年度として、鑄造産業ビジョンに掲げる課題、①技術開発による商品開発力の向上、②経営基盤強化と健全な取引による事業発展、③同業／異業／地域との積極的な連携による競争力強化、④海外との連携、⑤人材育成の充実、⑥環境・エネルギー対策の強化に関するアクションプラン2014に基づく事業計画により協会事業活動を推進した。本年度の主な事業活動は次の通り。

1. 平成26年5月15日付で日本鑄造機械工業会との統合を実施するとともに、協会運営組織の見直しを行い、環境部会と技術部会とを統合して技術・環境部会とした。併せて日本鑄造機械工業会業務の受け皿として機材部会を設けた。
2. 平成27年7月に鉄系の3団体が統合して本年度で10周年を迎えることから、平成27年1月29日に、新年賀詞交歓会を兼ねて創立10周年記念式典・祝賀会を開催した。
3. 東日本大震災以降の全国的な電気料金値上げに対応するために、本年度も5～6月及び10～11月の2回にわたり政府に対して電力多消費産業業界団体11団体連名による電気料金引き下げのための早期原発再稼働要望を含む「電力多消費産業の事業存続のための緊急要望」を行った。
4. 電気料金値上げ等のコスト増分の転嫁に関して、会員相互間の取引においても取引ガイドラインを遵守願いたいという趣旨の会員宛て文書を作成し、公正取引委員会の事前相談を行い、問題ないとの回答を得て、8月に鑄造メーカー会員宛てに配布した。併せて、6～9月にかけて主要ユーザー6団体宛てに会長名文書「原材料・電気料金値上げ等のコスト増を踏まえた適正取引について」を手交して、適正取引の周知を要請した。
5. 平成26年1月改訂の自動車産業適正取引ガイドライン及び3月改訂の素形材産業取引ガイドライン周知状況についてのフォローアップ調査を8月に行い、政府へ報告して両ガイドラインへの追加改訂を要望した。
6. 前年度に引き続き再生可能エネルギー全量買取制度（FIT）の会員による減免措置申請に関する情報提供ならびに業界実態をもとに小メーターの設置条件等の減免措置要件緩和や買取価格削減及び平成27年度予算・税制要望について政府、議連、政治家への働きかけを行った。
7. 非鉄金属鑄物分野の交流促進を目的とする非鉄情報交換会・展示会視察意見交換会を4月に東京にて開催した。軽合金委員会は、「自硬性中子分科会」活動報告を10月の秋季大会にて報告。銅合金委員会は、金型鑄造に関する研究と銅合金JIS原案作成を行った。
8. 技術開発では、専門委員会の成果として、「キュポラの緊急時対策マニュアル」を作成した。「IT化に対するアンケート」など3D-CAD、CAE等に関する会員の意識調査を行った。環境・エネルギー対策では、CO₂削減に関するアンケートの実施を行った。また、前年度に継続して、精密鑄造業の若手技術者のための精密鑄造用教科書の出版を目的とした精密鑄造

教科書編集を行った。戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン委託）については、これまでに終了した 10 件の開発成果の補完研究・事業化準備を推進した。

9. 標準化では、「JIS G5901（鋳型用けい砂）」及び「JIS H2022 鋳物用銅合金地金」「JIS H5120 銅及び銅合金鋳物」「JIS H5121 銅合金連続鋳造鋳物」の原案作成を行った。ISO/TC25 全体会議と ISO/TC25 WG15「鋳鉄の鋳造欠陥の分類」へ参加及びデータの提供を行った。
10. 人材育成では、将来の鋳物工場の経営者や工場長の育成を目指した鋳造カレッジを関東・東海・中国四国地区の 3 ヶ所で、鋳鉄コース、軽合金・銅合金コースの 3 コースを開催し、合計 83 名が受講修了した。当協会が認定する鋳造技士は平成 26 年度までの 8 年間で累計 578 名を認定するに至った。
11. 新入社員を対象とした新人教育研修プログラム「鋳造入門講座（鋳鉄コース）」を受講生 40 名により 4 月から 6 ヶ月間実施した。さらに、新人教育研修プログラムのカリキュラムを基にした教育用 DVD（製作は、榎新宿スタジオ）の製作・販売を受けて、会員宛てに特別価格にて頒布を行った。
12. 課題解決型専門コースである鋳造カレッジ上級コース「鋳鉄材料・溶解・凝固・材質コース」の公募（定員 20 名）を行い、平成 26 年 7~平成 27 年 2 月まで開講して 20 名が受講した。
13. 専門研修として、現場技術者及び作業者を対象に、「溶解」と「造型」をテーマとする鋳造の基礎技術に関する鋳造技術研修会を本年度も 4 回開催した。今年度から延べ 6 日間の「品質管理技術研修会」及び IT 化の推進のために「鋳造クラウド CAE 研修会」を実施した。
14. 国際交流では、ドイツ鋳造協会(BDG)、中国鋳造協会(CFA)、台湾鋳造工学会（TFS）、インド鋳造工学会（IIF）、アメリカ精密鋳造協会(ICI)、欧州精密鋳造協会（EICF）との交流を行った。
15. 国際会議は、9 月にイタリア・ベニスにて開催された国際鋳造フォーラムに木村会他が参加し、日本の動向を報告した。10 月のアメリカ精密鋳造協会の年次大会に出席し、ICI 技術講演会及び展示会に参加した。11 月に台湾の高雄市にて開催された第 8 回国際精密鋳造セミナーに日本から参加した。
16. 海外鋳造産業視察団派遣は、4 月にメタルチャイナ視察団の派遣、11 月に「台湾精密鋳造セミナー視察団」及び「台湾非鉄工場視察団」の派遣を行った。
17. 地方組織の活性化として、東海支部、北陸支部、中国四国支部の 3 支部活動を支援して地域活動を展開した。併せて島根県鋳造関連産業振興協議会が主催する初級研修開催の支援を行った。
18. 5 月に総会に併せて春季大会講演会を東京で開催、10 月に秋季大会講演会を福岡県北九州市において日本鋳造工学会と合同開催した。8 月（新潟県長岡市）及び 2 月（東京）に、若手経営者全国大会として講演会・工場見学会を開催した。

Ⅲ. 会議に関する事項

1. 会議に関する事項

本会運営上の基本的な事項及び重要案件を審議決定するため、総会、理事会 5 回、協会役員会 4 回、正副会長会 5 回、監事会 1 回、それぞれ開催し、事業の円滑な推進を図った。

(1) 社員総会

平成 26 年 5 月 15 日（木）、機械振興会館に於いて第 2 回社員総会を開催し、定款の改訂、日本鑄造機械工業会との統合、協会平成 25 年度事業報告・同収支決算、26 年度事業計画・同収支予算、戦略的基盤技術開発事業特別会計の精算に関する件、理事及び監事の選任について審議・承認した。

(2) 理事会

第 6 回から第 10 回までの合計 5 回開催し、協会運営に関する重要事項について審議・決定し、事業の推進を図った。

- 1) 第 6 回：平成 26 年 4 月 17 日（木）機械振興会館
- 2) 第 7 回：平成 26 年 5 月 15 日（木）機械振興会館
- 3) 第 8 回：平成 26 年 10 月 29 日（水）機械振興会館
- 4) 第 9 回：平成 27 年 1 月 29 日（木）東京プリンスホテル
- 5) 第 10 回：平成 27 年 3 月 20 日（金）機械振興会館

(3) 協会役員会

第 5 回から第 8 回までの合計 4 回開催し、協会運営に関する重要事項について審議・決定し、事業の推進を図った。

- 1) 第 5 回：平成 26 年 5 月 15 日（木）機械振興会館
- 2) 第 6 回：平成 26 年 10 月 29 日（水）機械振興会館
- 3) 第 7 回：平成 27 年 1 月 29 日（木）東京プリンスホテル
- 4) 第 8 回：平成 27 年 3 月 20 日（金）機械振興会館

(4) 正副会長会

第 48 回から第 52 回までの合計 5 回開催し、重要案件について審議した。

- 1) 第 48 回：平成 26 年 4 月 17 日（木）機械振興会館
- 2) 第 49 回：平成 26 年 7 月 25 日（金）機械振興会館
- 3) 第 50 回：平成 26 年 9 月 18 日（木）機械振興会館
- 4) 第 51 回：平成 26 年 12 月 4 日（木）日立金属高輪和彊館
- 5) 第 52 回：平成 27 年 2 月 20 日（金）機械振興会館

(5) 監事会

平成 26 年 4 月 14 日（月）機械振興会館に於いて監事会を開催し、平成 25 年度事業報告書、同収支決算書及び財産目録について監査を行った。

2. 部会に関する事項

(1) 鑄造産業ビジョン推進特別部会

1) 鑄造産業ビジョンアクションプランの平成 25 年度・26 年度実施状況と評価、第 3 期計画の最終年度である平成 27 年度の実施計画を作成した。

2) 部会の活動

第 7 回 平成 26 年 12 月 4 日 (木) 日立金属高輪和彊館

第 8 回 平成 27 年 2 月 20 日 (金) 機械振興会館

(2) 総務部会

田中総務部会長のもとに総務部会を 4 回開催し、本会の財務・経理及び組織・運営（他の部会に属するものを除く）に関する事項について審議した。

第 32 回 平成 26 年 6 月 13 日 (金) 機械振興会館

第 33 回 平成 26 年 9 月 17 日 (水) 機械振興会館

第 34 回 平成 26 年 11 月 28 日 (金) 広島県鑄物工業協同組合

第 35 回 平成 27 年 2 月 19 日 (木) 機械振興会館

(3) 経営部会

1) 経営部会を 4 回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討と、会員の企業経営に役立つ情報の提供並びに行事等の企画・立案について審議した。

第 36 回 平成 26 年 6 月 10 日 (火) 機械振興会館

第 37 回 平成 26 年 9 月 2 日 (火) 機械振興会館

第 38 回 平成 26 年 12 月 3 日 (水) 機械振興会館

第 39 回 平成 27 年 2 月 5 日 (木) 機械振興会館

2) 特に、最重要活動事項である再生エネルギー全量買取制度見直しへの取り組みについて、中小企業部会と合同幹部会を下記の通り開催、対応を協議した。

第 5 回 平成 26 年 9 月 18 日 (木) 機械振興会館

(4) 技術部会

濱田新技術部会長のもとに技術部会を 3 回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討および委員会運営等に関する事項について審議を行った。

第 1 回 平成 26 年 6 月 18 日 (水) 機械振興会館

第 2 回 平成 26 年 9 月 17 日 (火) 機械振興会館

第 3 回 平成 27 年 2 月 19 日 (木) 機械振興会館

(5) 非鉄部会

明石非鉄部会長のもとに非鉄部会を 3 回開催し、部会の運営方針、鑄造カレッジ非鉄コースの運営ならびに委員会活動に関する事項について審議を行った。

第 1 回 平成 26 年 4 月 15 日 (火) 機械振興会館

第2回 平成26年7月18日(金) 機械振興会館

第3回 平成27年1月30日(金) 機械振興会館

(6) 国際部会

松永新国際部会長のもとに、国際部会を3回開催し、国際交流、海外視察・調査等に関する事項について審議を行った。また、鑄造関係の国際会議やセミナー参加に対する実行企画立案、海外鑄造団体との交流推進、海外視察団の派遣等を推進した。

特に、平成26年10月8日～10日の間、初めてタイで商談会を開催した。

第1回 平成26年6月10日(火) 機械振興会館

第2回 平成26年10月28日(火) 機械振興会館

第3回 平成27年2月3日(火) 機械振興会館

(7) 中小企業部会

伊藤中小企業部会長のもとに中小企業部会を4回開催し、本協会の中小企業振興に関する事業、組合に関する事業等について審議を行った。

第40回 平成26年6月24日(火) 高輪和彊館

第41回 平成26年9月3日(水) 高輪和彊館

第42回 平成26年12月8日(月) 岡山ピュアリティまきび

第43回 平成27年3月3日(火) 機械振興会館

(8) 機材部会

日本鑄造機械工業会との統合後、機材部会を設置した。渡邊機材部会長のもとに機材部会を3回開催し、機材部会としての活動方針・計画、委員会設置等に関する事項について審議を行った。

第1回 平成26年7月3日(木) 機械振興会館

第2回 平成26年10月24日(金) 機械振興会館

第3回 平成27年2月4日(水) 機械振興会館

IV. 事業活動に関する事項

1. 大会及び講演会・講習会等の開催に関する事項

(1) 平成26年度春季大会講演会の開催

平成26年5月16日(金) 東京にて春季大会講演会を開催した。

講演会 建築会館ホール 参加人数 135名

演 題	講演者	所 属
第1部 「元気な会社の元気な経営 ～持続的成長を目指して～」	疋田文明	経営コンサルタント
第2部 「私たちのグローバルチャレンジ」	石田繁夫	ジャトコ元社長
第3部 3Dプリンター講演 1. 「3D プリント技術で鉄・鋼品の超短期製造を実現」 2. 「『3D 積層【付加製造】工法』 鋳物づくりの現場から」 3. 「鋳造を中心とした 3D プリンターのものづくりへの活用」	木村寿利 小岩井修二 岡根利光	(株)木村鋳造所 代表取締役社長 (株)コイワイ 専務取締役 (独) 産業技術総合研究所 先進製造プロセス研究部門 基盤的加工研究グループ長

(2) 平成 26 年度秋季大会講演会の開催

平成 26 年 10 月 18 日（土）北九州市にて日本鋳造工学会と秋季大会講演会を合同開催した。

講演会 北九州国際会議場 1 階 メインホール 参加人数 101 名

演 題	講演者	所 属
第Ⅰ部 経営講演 1. 「鋳造に携わって 36 年」	榎本信之	(株)エノモト 代表取締役
2. 「人の成長なくして企業の成長なし ～人と組織の自立を目指した経営革新活動～」	鶴ヶ野未央	(株)九州タブチ 代表取締役社長
3. 「木村鋳造所の事業承継」	木村博彦	(株)木村鋳造所 名誉会長
第Ⅱ部 特別講演 1. 「鋳金の至宝、芦屋釜の復元に挑む」	新郷英弘	芦屋釜の里 学芸員
2. 「欧州鋳造産業の動向とイタリア工場見学報告」	角田悦啓	(一社) 日本鋳造協会 専務理事

(3) 若手経営者全国大会の開催

平成 26 年 9 月 11 日～12 日に中越地区で夏季大会（講演会・懇親会・工場見学会）、平成 27 年 2 月 13 日東京地区で冬季大会（素形材団体との交流会）を 2 回実施した。

①夏季大会

1) 講演会 平成 26 年 9 月 11 日 (木) 長岡グランドホテル 参加人数 80 名

演 題	講演者	所 属
「素形材産業の今後の展開に向けて」	木村 隼斗	経産省素形材産業室 室長補佐
「海外市場への挑戦」 (メタルチャイナ・GIFA 共同出展他)	高橋健太郎	メタルチャイナ合同出展 団長
「グローバル展開の事例」 ～インデックスライツの取組～	永森 久之	錦正工業(株) 代表取締役
「中小企業の自立について」	中村 智彦	神戸国際大学 教授

2) 工場見学会 平成 26 年 9 月 12 日 (金)

(株) キャストアンドー、武合金 (株)、(株) 品川鋳造、(株) 三条特殊鋳工所

②冬季大会

講演会 平成 27 年 2 月 13 日 (金) 浜松町貿易センタービル 参加人数 154 名

演 題	講演者	所 属
「最近の我が国経済と平成 27 年度に 向けた経済産業省の取組」	遠山 毅	経済産業省 製造産業局 素形材産業室 室長
「出会いと感動！」	中村 文昭	(有)クロフネカンパニー 社長

- (4) 平成 26 年「“鋳鉄鋳物製造現場の Q&A”に基づく鋳鉄の不良と対策事例講演会」の開催
平成 26 年 12 月 13 日(土)水沢市にて、経済産業省産学連携イノベーション促進事業の一
環として、上記講演会を開催した。(技術普及委員会)

講演会 水沢グランドホテル 参加人数 20 名

演 題	講演者	所 属
(1) 材質	伊藤 賢児	(一社)日本鋳造協会 技術グループ GL
(2) 鋳造 方案および 鋳造 欠陥	張 博	(有)張技術事務所 所長
(3) 品質保証	鈴木 伸二	(一社)日本鋳造協会 技術顧問
(4) Q&A(質疑応答)	全講師	

- (5) リスクアセスメント推進研修会

労働災害の減少を図るため、安全管理手法としてリスクアセスメント(機械等や作業の
危険・有害性の事前評価)を推進する研修会を日本鋳鍛鋼会、(一社)日本ダイカスト協会、
(一社)日本鍛造協会と合同で開催した。

平成 27 年 3 月 4 日 (水) 10 : 30 ~ 16 : 10

機械振興会館 地下 3 階 研修 1 号室 参加者 11 名 (4 団体合計 40 名)

(6) セミナー

(一社)日本鍛造協会、(一社)日本ダイカスト協会と合同で、高度ポリテクセンター*の協力により、セミナーを開催した。

①「次世代につなげる設備保全マンの人材育成」

名古屋(7月15日(火))、東京(2月5日(木)) 延べ参加者52名。

②「現場で役立つ鉄鋼材料の熱処理の基本」

名古屋(9月17日(水))、東京(10月8日(水)) 延べ参加者52名。

③「コスト低減を追求したものづくり」

東京(12月16日(火))、名古屋(2月26日(木)) 延べ参加者38名。

* (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構 高度職業能力開発促進センター

(7) 創立10周年記念式典(講演会・式典・祝賀会)・新年賀詞交歓会

平成27年1月29日(木)に東京プリンスホテル(港区)に於いて、創立10周年の記念式典を開催した。式典には、行政、学会、関係団体からの招待を含めて346名の参加があった。記念講演会には、328名、祝賀会・新年賀詞交歓会には、379名の参加があった。

演題:「2015年の行方を読む～モノづくり大国を担う者たち～」

講師:手嶋 龍一氏 外交ジャーナリスト・作家

2. 国際競争力を発揮できる環境の整備(経営部会・中小企業部会)

(1) 電気料金値上げ・コストアップ分の価格反映、再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)による当業界への負担軽減への取組

- ① 日本鉄鋼連盟他エネルギー多消費産業団体と共同で経産大臣宛に平成26年5月、10月、環境大臣宛に平成26年11月に要望を行った。
- ② 6ユーザー団体宛に会長名文書の発行(平成26年9月19日)ならびに訪問(平成26年9月～10月)したほか、会員間文書の発行(平成26年8月12日)、価格転嫁状況アンケート(平成26年8月)等を実施した。
- ③ FITについては小メーターの設置等の減免基準の緩和、買取価格抑制に向けた情報収集ならびに政府への要望を行った。

(2) エネルギー安定供給並びにコストダウンのため原発の再稼働等の関係機関への要望

- ① 日本鉄鋼連盟他エネルギー多消費産業団体と共同で経産大臣宛平成26年5月、10月、環境大臣宛に11月、経済再生担当大臣に11月に要望を行った。
- ② 電力多消費産業の困窮に関するポスターを作成し、意見広告を掲載(平成26年8月、9月、10月)したほか、原子力国民会議への参加促進ならびに協会の意見表明をした(2014年6月)。
- ③ 省エネ補助金の要件緩和を要請し、周知、活用を促した(平成26年4月)ほか、「省

エネ・節電診断」説明会を開催した（平成 26 年 6 月 24 日）。

(3) 経営基盤強化にかかる政策制度への対応

中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業、エネルギー使用合理化事業者支援事業、生産性向上設備投資促進税制、経産省セーフティネット保証延長申請、産業競争力強化法における経営改善・事業再生支援策、中小企業経営承継円滑化法、雇用調整助成金制度等の情報提供ほか、環境問題、法人税引き下げについて政府与党に対し予算・税制要望を行った（平成 26 年 10 月 24 日）。

(4) 鋳物議連への要望

①4 月 17 日民主党日本鋳造産業振興議員連盟総会の開催

4 月 17 日 17:00 より、日本鋳造協会と民主党日本鋳造産業振興議員連盟との情報交換会が東京・永田町の衆議院第一議員会館で開催された。民主鋳造議連からは直嶋正行会長をはじめ、海江田万里、高木芳明、中川正春、松原仁、大野元裕、大西健介、安井美沙子、尾立源幸の各代議士が出席、その他 9 名が代理出席した。協会からは木村博彦会長、藤原慎二、斉藤勝広、明石巖、尾中盛和、松永昭博各副会長ほか 3 名が出席した。また、経済産業省から製造産業局高田修三審議官、田中哲也素形材産業室室長、村上敬亮新エネルギー対策課課長、植木健司経営支援課課長補佐、黒田俊久創業・技術課課長補佐らの担当者も出席した。

木村会長から、今年に入り 4 月から鋳造業が最も集積している中部電力の値上げがあり、値上げを実施した 7 電力会社のコスト負担増は約 83 億円となった。さらに同規模の値上げが全国で実施された場合、鋳造業全体の負担増は 102 億円にのぼり、まさに致命的な影響を受ける。今回、取引適正化ガイドラインの改訂があり、大変使いやすいものとなっているので、これを活用して適正価格の転嫁に取り組んでいるので是非とも政府の支援をお願いしたいと挨拶された。

また、藤原副会長より、1.原子力発電の再稼働について、2.エネルギーコスト増に対する負担軽減について、3.予算、4.法人税等実行税率の引き下げ等の要望を行った。

②6 月 4 日自民党鋳物産業振興議員連盟総会の開催

6 月 4 日 12:00 より、鋳物産業振興議員連盟総会が自由民主党本部 8 階リバティ 2、3 号室にて開催された。麻生太郎会長、田中和徳会長代行、新藤義孝幹事長など 34 名の衆議院・参議院の国会議員が出席した。協会からは木村博彦会長、伊藤光男副会長や協会役員など計 20 名が参加した。また経済産業省から製造産業局、資源エネルギー庁、素形材産業室、中小企業庁中小企業庁経営支援課・創業・技術課課長、法務省入国管理局の関係者も出席した。

協会の陳情書は、1.原子力発電の再稼働について、2.再生可能エネルギー固定価格

買取制度について、3.取引慣行適正化の推進、4.外国人技能実習制度の期間延長等、5.電力多消費産業に対する省エネ投資支援施策の特例について、6.ものづくり小規模事業者等人材育成事業及びキャリア形成促進助成金等の強化、7.法人税等実行税率の引き下げ等の要望を行った。

経済産業省製造産業局担当者、素形材産業室、資源エネルギー、中小企業庁経営支援課・創業・技術課、法務省入国管理局入国在留課などからそれぞれ説明があり、意見交換の後、議員連盟としての決議を採択し、総会は終了した。

決 議

鋳物産業は、わが国産業発展経済発展の原動力である機械工業の基盤を支える素形材を供給する極めて重要な産業である。しかし同時に、私ども鋳物産業は中小企業が99%を占めとともに、売上高に占める購入電力金額は10%に相当する「電力多消費産業」でもある。

我が国鋳物産業が、今後とも我が国製造業を支え、さらに国際競争力を強化していくためには、目下、死活問題とも言えるエネルギーコスト増の問題を始めとした多くの課題を解決するとともに、このため、積極果敢な取組を一層強化する必要がある。下記の具体的措置を講じることを要望する。

1. エネルギーコストの負担増が鋳造業界に深刻な影響を与えていることを踏まえ、
 - ①安全性を確保した原発の再稼働やベストミックスにより、一刻も早く安価で安定的な電力供給が確保できるよう適切な措置を講じること。
 - ②一般のエネルギー基本計画策定後における再生エネルギー固定価格買取制度の見直しに当たっては、賦課金の上昇に歯止めをかけるとともに賦課金が中小企業に過重とならないよう、運用面を含め制度全体の検証を行うこと。
 - ③エネルギーコスト増分の価格転嫁ができる環境を整備するため、「素形材産業ガイドライン」その他関連業種の取引ガイドラインについて、周知徹底を行うとともに実効性を確保すべく適切なフォローアップを行うこと。
 - ④省エネ投資への支援に当たっては、電力多消費の中小企業にとって使い勝手の良い環境整備を進めること。
2. 設備投資や事業展開、人材育成等、積極果敢な取組を進めている企業を強力に後押しするため、
 - ①法人実効税率の国際水準への引き下げを行うこと。
 - ②外国人技能実習制度について、期間の延長や受入枠の拡大など、深化と拡大の観点から見直しを進めること。
 - ③ものづくり・商業・サービス補助金など中小企業の設備投資や人材育成を後押しする予算を継続的に確保すること。

以上、決議する。

平成26年6月4日

鋳物産業振興議員連盟 会長 麻生太郎

(5)経営講演の企画

2013年5月春季大会にて「元気な会社の元気な経営～持続的成長を目指して～」と題し元気塾 足田文明氏による講演を企画、実施した。

3. 鑄造業の経営改善・振興対策に関する事項

(1) 取引条件適正化の推進

下請代金支払遅延等防止法、下請中小企業振興法、独占禁止法（優越的地位の濫用）、下請取引ガイドライン説明会・セミナーをホームページ、経営部会専門委員会等で周知した。また、改訂された素形材取引ガイドラインのフォローアップ調査を取りまとめたほか、経済産業省競争環境整備室によるカルテル勉強会を開催した。

4. 同業との連携

(1) 量産銑鉄鑄物委員会

量産銑鉄鑄物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に4回開催した。

第25回 平成26年6月16日（月）機械振興会館 参加者22名

第26回 平成26年9月18～19日（木～金）マロウドイン大宮

（株）北川鉄工所東京工 見学 参加者21名

第27回 平成26年12月19日（金）機械振興会館 参加者23名

第28回 平成27年2月26～27日（木～金）静岡グランドホテル中島屋

（株）スギヤマ（山梨工場・本社工場）見学 参加者18名

(2) 非量産銑鉄鑄物委員会

非量産銑鉄鑄物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に3回開催した。

第19回 平成26年6月27日（金）機械振興会館 参加者20名

第20回 平成26年11月19日（水）機械振興会館 参加者18名

第21回 平成27年3月13日（金）マツダ（株）本社工場見学（広島県府中町）参加者18名

(3) 精密鑄造経営委員会

精密鑄造会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に4回開催した。

第36回 平成26年6月5日（木）機械振興会館 参加者9名

第37回 平成26年9月17日（水）機械振興会館 参加者8名

第38回 平成26年12月2日（火）機械振興会館 参加者9名

第39回 平成27年2月17日（火）機械振興会館 参加者9名

(4) 鋳鋼鋳物委員会

鋳鋼鋳物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に3回、カレッジ鋳鋼コーステキスト作成委員会を1回開催した。

第18回 平成26年6月18日(水) 機械振興会館 参加者15名

第19回 平成26年12月2日(火) 東京交通会館 参加者11名

第20回 平成27年3月9日(月) コイワイ(株)、(株)エクスワン見学(神奈川県小田原市)
参加者21名

カレッジ鋳鋼コーステキスト作成委員会 平成27年2月26日(木) 機械振興会館

(5) 非鉄部会情報交換会の活動

非鉄会員企業の連絡を密にし、振興を図るため情報交換会を目的に2回開催した。

第6回 情報交換会 平成26年4月15日(火) メルパルク東京 参加者39名
展示会視察(第1回 メタル ジャパン(高機能 金属展))

平成26年4月16日(水) 東京ビッグサイト 参加22名

台湾非鉄鋳造工場視察(秋季情報交換会の代替)

平成26年11月12日(火)～15日(土) 参加者20名

台湾非鉄工場の視察(以下の4社を訪問した。)

①CHIPS INVESTMENT CASTING INC.

②FU SAN MACHINERY CO., LTD.

③Aviocast, Inc. Taichung Plant

④JING YUH METAL INDUSTRIAL CO., LTD.

5. 調査研究に関する事項

(1) 市場調査委員会の活動

第19回 平成26年9月2日(火) 機械振興会館 参加者2名

平成26年6、9、12月、平成27年3月に景況調査を実施。

(調査項目)

①製品別生産量・生産金額、都道府県別生産量・生産金額、従業員数の統計調査

②原材料、副資材価格動向調査

③景況調査

④倒産、転業、廃業、休業調査

⑤需要予測調査

⑥景況悪化に伴う生産動向、雇用状況、資金繰り状況の調査

⑦ユーザー業界の生産動向

(2) 倒産・転廃業調査、鋳造業界動向について毎月ホームページにて公表した。

6. 鑄造業に係る施策・税制等の要望・陳情に関する事項

(1) 施策関係

再生エネルギー全量買取制度減免措置の要件緩和、電力料金値上げについて、民主党日本鑄造産業振興議員連盟、自由民主党鑄物産業振興議員連盟に対して要望を行った。

詳細は、「2. 国際競争力を発揮できる環境の整備」を参照

(2) 税制関係

10月に自由民主党組織運動本部商工・中小企業関係団体、政務調査会経済産業部へ平成26年度予算・税制等に関する鑄造業界の要望を実施した。

(予算関係)

- ①ものづくり小規模事業者等人材育成事業の強化
- ②ものづくり・商業・サービス補助金の予算化
- ③エネルギー使用合理化等事業者支援補助金の拡充
- ④戦略的基盤技術高度化支援事業の強化
- ⑤経営者保証制度の見直し

(税制関係)

- ⑥法人税等実行税率の引き下げ
- ⑦自動車関係諸税の簡素化・負担軽減
- ⑧地球温暖化対策税制の用途拡大等の反対

7. 中小企業振興に関する事項

(1) 組合代表者会の活動

- 1) 第26回 平成26年 6月24日(火) 高輪和彊館
- 2) 第27回 平成26年 9月 3日(水) 高輪和彊館
- 3) 第28回 平成26年 12月 8日(月) 岡山ピュアリティまきび
- 4) 第29回 平成27年 3月 3日(火) 機械振興会館

(2) 組合事務局長会の活動

- 1) 第29回 平成26年 6月24日(火) 高輪和彊館 (代表者会合同)
- 2) 第30回 平成26年 9月 3日(水) 高輪和彊館 (代表者会合同)
- 3) 第31回 平成26年 11月 16日(日)～17日(月) ホテルサンルート長野
工場見学 (株)コヤマ
- 4) 第32回 平成27年 3月 3日(火) 機械振興会館 (組合代表者会合同)

(3) 若手経営者委員会の活動

- 1) 第30回 平成26年 6月20日(金) 機械振興会館
- 2) 第31回 平成26年 10月 2日(木)～3日(金) 札幌市しもくら

- 3) 第 32 回 平成 26 年 12 月 4 日 (木) 機械振興会館
- 4) 第 33 回 平成 27 年 3 月 13 日 (金) 光洋鋳造(株)

8. 非鉄金属鋳物に関する事項

(1) 軽合金委員会 (委員長 田島 正明)

1) 第 1 回 小樽工場見学会

平成 26 年 6 月 11 日 (水) (株)光合金製作所 参加者 10 名

平成 26 年 6 月 12 日 (木) (株)田中工業 参加者 9 名

2) 第 2 回 平成 26 年 12 月 2 日 (火) 東京八重洲ホール 511 会議室 参加者 15 名

(2) 軽合金_大物中子分科会 (委員長 山口 一男)

1) 第 1 回 平成 26 年 4 月 2 日 (水) 川口キャスティ 参加者 4 名

2) 第 2 回 平成 26 年 6 月 25 日 (水) 川口キャスティ 参加者 5 名

3) 第 3 回 平成 26 年 8 月 5 日 (火) 川口キャスティ 参加者 4 名

4) 第 4 回 平成 26 年 10 月 3 日 (金) 川口キャスティ 参加者 4 名

(3) 軽合金_中子(シェル)分科会 (委員長 渡辺 一郎)

第 1 回 平成 26 年 7 月 29 日 (火) 参加者 4 名

第 2 回 平成 26 年 8 月 20 日 (火) 注湯試験 参加者 3 名

(4) 銅合金技術委員会 (委員長 岡根 利光)

1) 第 1 回 平成 26 年 6 月 20 日 (金) 機械振興会館 参加者 40 名

2) 第 2 回 平成 26 年 10 月 19 日 (日) 北九州国際会議場 参加者 29 名

3) 第 3 回 平成 27 年 3 月 10 日 (火) 機械振興会館 参加者 42 名

(5) 銅合金 JIS 改正原案作成委員会 (委員長 岡根 利光)

1) 第 1 回 平成 26 年 10 月 28 日 (火) 機械振興会館 参加者 18 名

2) 第 2 回 平成 26 年 12 月 17 日 (水) 機械振興会館 参加者 23 名

(6) 銅合金 JIS 改正分科会 (委員長 岡根 利光)

1) 第 1 回 平成 26 年 4 月 18 日 (金) 機械振興会館 参加者 26 名

2) 第 2 回 平成 26 年 6 月 20 日 (金) 機械振興会館 参加者 26 名

3) 第 3 回 平成 26 年 7 月 16 日 (水) 機械振興会館 参加者 15 名

4) 第 4 回 平成 26 年 9 月 1 日 (月) 機械振興会館 参加者 25 名

5) 第 5 回 平成 26 年 12 月 3 日 (水) 機械振興会館 参加者 26 名

6) 第 6 回 平成 27 年 1 月 14 日 (水) 機械振興会館 参加者 25 名

9. 技術開発に関する事項

- (1) 鋳型技術委員会（委員長 渡辺 一郎 テーマ：鋳型技術の情報紹介）
 - 1) 第1回 平成26年5月9日（金）機械振興会館 参加者22名
 - 2) 第2回 平成26年9月9日（火）機械振興会館 参加者11名
 - 3) 第3回 平成26年11月26日（水）機械振興会館 参加者25名
 - 4) 第4回 平成27年3月6日（金）機械振興会館 参加者16名
- (2) 球状黒鉛鋳鉄の歩留り向上研究委員会（委員長 張 鐘植 テーマ：歩留まりの極限化）
 - 1) 第1回 平成26年6月26日（木）～27日（金）大和重工（株） 参加者11名
 - 2) 第2回 平成26年9月26日（金）（株）コヤマ 参加者13名
 - 3) 第3回 平成27年3月6日（金）機械振興会館 参加者13名
- (3) キュボラ操業研究委員会（委員長 米田 博幸 テーマ：安全操業マニュアルの作成）
 - 1) 第1回 平成26年6月12日（木） 機械振興会館 参加者10名
 - 2) 第2回 平成26年7月23日（水） 機械振興会館 参加者13名
 - 3) 第3回 平成26年11月5日（水） 機械振興会館 参加者13名
 - 4) 第4回 平成27年2月27日（金） 機械振興会館 参加者10名
- (4) 電気炉操業研究委員会（委員長 菅野 利猛 テーマ：溶解原単位の低減）
 - 1) 第1回 平成26年6月24日（火） 機械振興会館 参加者25名
 - 2) 第2回 平成26年9月19日（金） コマツキャストックス（株）本社工場
（環境部会との合同見学会） 参加者20名
 - 3) 第3回 平成26年12月10日（水） 機械振興会館 参加者24名
- (5) 精密鋳造技術委員会（委員長 岩瀬 稔 テーマ：精密鋳造用ワックスの規格化）
（公社）日本鋳造工学会精密鋳造部会との共同開催
 - 1) 第1回 平成26年5月23日（金） 機械振興会館 参加者10名
 - 2) 第2回 平成26年8月22日（金） 機械振興会館 参加者10名
 - 3) 第3回 平成26年11月21日（金） 機械振興会館 参加者12名
 - 4) 第4回 平成27年2月20日（金） 機械振興会館 参加者14名
- (6) 精密鋳造業の若手技術者及び関連企業の技術者の啓蒙を図るため平成25年度に続いて精密鋳造用教科書の出版を目的とした精密鋳造教科書監修部会（委員長 大塚公輝）を開催し、主に校正作業を実施した。なお、平成27年5月には刊行の予定。
 - 1) 第8回 平成26年4月14日（月）機械振興会館 出席者9名
 - 2) 第9回 平成26年7月8日（火）機械振興会館 出席者4名
 - 3) 第10回 平成26年7月24日（月）機械振興会館 出席者9名
 - 4) 第11回 平成26年9月11日（火）機械振興会館 出席者8名
 - 5) 第12回 平成27年1月7日（火）機械振興会館 出席者7名

- 6) 第13回 平成27年1月13日(木) 機械振興会館 出席者7名
- (7) 戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン委託)については、次の3件の終了プロジェクトの補完研究を行うとともに、終了プロジェクトの開発成果の事業化を推進するための一環として、開発成果講演会を企画し準備した。
- 1) 鋳造歩留りを10%以上向上させる新押湯方式による鋳造方法の開発
期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日(補完研究)
 - 2) 超細鋳抜き孔のためのカーボン中子の開発
期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日(補完研究)
 - 3) ラピッドプロトタイプングによる精密鋳造用鋳型及び中子の迅速成型技術の開発
期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日(補完研究)
 - 4) 真球人工砂を用いた高流動低温成型プロセスの開発
期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日(事業化準備)

10. 環境に関する事項

- (1) エネルギー削減委員会(委員長 大江 雅也)
 - 1) 第1回 平成26年7月18日(水) 機械振興会館 参加者7名
 - 2) 第2回 平成26年9月19日(金) コマツキャステックス(株) 本社工場
(電気炉操業研究委員会との合同見学会) 参加者4名
 - 3) 第3回 平成27年1月30日(金) ENEX 2015 視察 国際展示場会議室803号室
参加者10名

11. 指導・教育・人材育成に関する事項

- (1) 鋳造カレッジ企画運営委員会の活動
 - 1) 第10回 平成26年5月27日(火) 機械振興会館
- (2) 鋳造カレッジ企画運営委員会と日本鋳造工学会人材育成委員会との合同委員会の活動
 - 1) 第24回 平成26年5月27日(火) 機械振興会館
 - 2) 第25回 平成27年2月25日(水) 機械振興会館
- (3) 鋳造カレッジ鋳鋼コーステキスト作成委員会の活動
 - 1) 第1回 平成27年2月26日(木) 機械振興会館
- (4) 鋳造カレッジ現地責任者会議の活動
 - 1) 第17回 平成26年9月1日(月) 高輪和彊館
 - 2) 第18回 平成26年12月19日(金) 機械振興会館
- (5) 鋳造カレッジの開催・実施
 - 1) 平成26年5月15日鋳造技士認定証授与式を開催し、95名の鋳造技士を認定した。

2) 関東・東海・中国四国の3地区において日本鑄造工学会との連携の下に鑄鉄・非鉄(銅・軽合金)コースの鑄造カレッジを開催し、座学・インターンシップを実施して受講生83名全員が修了した。

(6) 新人教育研修プログラムの開催・実施

東京において鑄鉄コース40名の受講生で教育期間6ヶ月間の新人教育研修プログラムを平成26年4月から9月まで実施、修了した。アルミニウム鑄物コースは応募者がなく実施しなかった。

1) 新人教育研修プログラム委員会(委員長 北澤幸廣)

第1回 平成26年11月4日(火) 機械振興会館(平成27年度募集内容審議)

第2回 平成27年2月24日(火) 機械振興会館(平成27年度受講生選考)

(7) 技術普及委員会の活動(委員長 鈴木伸二 鑄造技術研修会の講義内容に関する審議)

鑄造技術研修会の講義内容の調整を行った。

1) 第1回 平成26年6月2日(月) 機械振興会館 出席者5名

(研修会6月3日の準備)

2) 第2回 平成26年7月15日(火) 機械振興会館 出席者5名

(研修会8月2日の準備)

3) 第3回 平成26年10月27日(月) 機械振興会館 出席者4名

(研修会11月8日の準備)

4) 第4回 平成27年2月10日(火) 機械振興会館 出席者5名

(研修会3月7日の準備)

(8) 鑄造技術研修会

鑄造の基礎技術を、現場技術者及び作業者を対象に「溶解」と「造型」をテーマに各1回ずつ、合計4回開催した。(技術普及委員会)

第1回(溶解) 平成26年6月14日(土) 東京 参加者41名

第2回(溶解) 平成26年8月31日(土) 静岡 参加者36名

第3回(造型) 平成26年11月8日(土) 東京 参加者20名

第4回(造型) 平成27年3月7日(土) 静岡 参加者37名

(9) 鑄造技能研修会

中小企業の技術力の向上を図るために、会員企業が問題必要としている技術的案件に関する「重点テーマ」を新たに取り上げ、現場技術者及び作業者を対象に短期間の専門技能研修会を行い、技術力の底上げを図った。

①鑄造クラウドCAE研修会(4回(8日間))

第1回 平成26年10月24日(金)～25日(土) 機械振興会館 参加者9名

第2回 平成26年12月19日(金)～20日(土) 機械振興会館 参加者9名

第3回 平成27年2月6日(金)～7日(土) 機械振興会館 参加者9名
②品質管理技術研修会(3回(6日間))

第1回 平成26年12月5日(金)～6日(土) 機械振興会館 参加者25名

第2回 平成27年1月9日(金)～10日(土) 機械振興会館 参加者24名

第3回 平成27年1月23日(金)～24日(土) 機械振興会館 参加者23名

(10) 鑄造カレッジ・上級コースに関する活動

平成26年3月20日理事会にて、鑄造カレッジ・上級コースを公募の上試行開講する事が承認されたので、鑄造カレッジ企画運営合同委員会の下、鑄造カレッジ・上級コースWG(委員長 米田博幸)にて、上級コース「鑄鉄材料・溶解・凝固・材質コース」の平成27年度本開講に向けてのカリキュラムの実施状況、評価と運営体制の確認等を目的とした次の活動を行った。

1) 東京・盛岡・大阪・名古屋において20名の受講生で教育期間8ヶ月間の鑄造カレッジ・上級コース「鑄鉄材料・溶解・凝固・材質コース」を平成26年7月から平成27年2月まで実施、修了した。なお、この講座は中小企業庁ものづくり小規模事業者等人材育成事業の指定講座として認定を受け、受講生15名がこの補助金を利用した。

2) 鑄造カレッジ・上級コース「鑄鉄材料・溶解・凝固・材質コース」(委員長 米田博幸)

第1回 WG 平成26年6月25日(水) 機械振興会館 出席者11名

第2回 WG 平成26年8月28日(木) 機械振興会館 出席者15名

第3回 WG 平成27年1月9日(金) 機械振興会館 出席者12名

第4回 WG 平成27年2月25日(金) 機械振興会館 出席者10名

12. 鑄造技士会活動に関する事項

鑄造カレッジを一定の成績で終了した受講生に対する協会認定制度「鑄造技士(Foundry Expert)」は、平成26年度で578名を認定するに至った。この鑄造技士の技術のさらなる向上とネットワークを維持強化するための組織として、鑄造カレッジの6つの開催地区ごとに鑄造技士会を設立している。本年度の各地区の鑄造技士会の活動概要は次の通り。

(1) 北海道鑄造技士会

9月25日(木)に技術研修会・交流会、翌日26日(金)に工場見学会を開催した。研修会は、鑄造工学会生型研究部会、同北海道支部ほかとの共催行事として実施し、技士会メンバーほか46名が参加した。工場見学会は、苫小牧市の(株)日邦バルブ・北海道工場を見学した。

(2) 関東鑄造技士会

10月10日(金)に工場見学会・情報交換会を開催した。工場見学会は、日産自動車栃木工場と真岡製作所を見学。なお真岡製作所では、同社にある安全体感技塾を受講した。

参加者は 30 名

(3) 東海鑄造技士会

11 月 8 日（土）に、愛知県鑄物工業協同組合にて講演会・工場見学会と技術交流・情報交換会を開催した。参加者は講演会に 34 名、技術交流・情報交換会に 32 名

(4) 関西鑄造技士会

3 月 6 日（金）に大阪府立大学 I-site なんばにて講演会・意見交換会を開催した。26 名が参加した。

(5) 北陸鑄造技士会

平成 27 年 3 月 9 日に開催した若手技術者研究発表会には北陸鑄造技士会として参加（9 名）。

(6) 中国四国鑄造技士会

9 月 18～19 日の一泊 2 日で、YFE 鑄造技術研究会の工場見学・研究会に参加。工場見学は宇部スチール。参加者は 10 名

13. 標準化に関する事項

(1) 標準化委員会の活動（委員長 佐藤 和則 ISO および JIS に関する審議）

1) 第 1 回 平成 26 年 7 月 3 日（木）機械振興会館 出席者 8 名

2) 第 2 回 平成 26 年 11 月 19 日（水）機械振興会館 出席者 6 名

(2) JIS 原案の改正

1) 「JIS G5901（鑄型用けい砂）」原案作成委員会（委員長 清水一道）

第 1 回 平成 26 年 12 月 12 日（金）機械振興会館 出席者 11 名

2) 「JIS H2022 鑄物用銅合金地金」「JIS H5120 銅及び銅合金鑄物」

「JIS H5121 銅合金連続鑄造鑄物」原案作成委員会（委員長 岡根利光）

銅合金技術委員会にて審議（「8. 非鉄金属鑄物に関する事項」参照）

(3) ISO/TC25 国内審議委員会の活動（委員長 清水一道 ISO/TC25 の規格改定等に関する審議）

1) 第 1 回 平成 26 年 7 月 3 日（水）機械振興会館 出席者 12 名

2) 第 2 回 平成 26 年 11 月 19 日（木）機械振興会館 出席者 9 名

3) 平成 26 年 10 月 9 日～10 日にロンドンの BSI にて開催された ISO/TC25 全体会議と ISO/TC25 WG15 「鑄鉄の鑄造欠陥の分類」へ参加及びデータの提供。

14. 国際交流に関する事項

(1) 海外鑄造業界との情報交換

(a) 5 月 Metal China の会場で、中国他アジア鑄造フォーラム（AFF）幹事国と JFS が主催し 2015 年 5 月に実施する第 3 回 AFF の開催について協議した。

- (b) 6月欧州精密鑄造協会（EICF）の国際総会にJFSから20名出席。
 - (c) 9月にイタリア鑄造協会（ASSOFOND）を訪問し情報交換を実施。
 - (d) 9月に国際鑄造フォーラム（IFF）へ7名出席し、木村会長が講演。
 - (e) 上記IFFの会場で中国鑄造協会（CFA）と情報交換を実施。
 - (f) 9月にドイツ鑄造協会（BDG）を訪問し定期協議を実施。エネルギー問題等で意見交換を行った。
 - (g) 10月タイで行った商談会の会場で、タイ鑄造協会と情報交換を実施。
 - (h) 11月台湾鑄造学会（TFS）主催の第8回国際精密鑄造セミナー（ISIC）に25名出席。
TFS、CFA、ICIおよびEICFと、第9回ISIC（東京）の開催時期および2016 WCIC（パリ）への協力に関して協議した。
 - (i) 12月韓国鑄造学会を訪問し、両団体の交流に関して協議した。
- (2) 会員への情報収集機会の提供
- (a) 5月20日～24日 Metal China+中国鑄造工場（4社）視察団を派遣（26名）
 - (b) 6月1日～5日 日本鑄鍛鋼会と共同で無錫鑄造協会訪日視察団を受入れ、4社を見学（10名）
 - (c) 6月15日～21日 EICF+英国精密鑄造関連会社訪問（3社）
 - (d) 9月21日～30日 IFF+イタリア鑄造工場視察（3社）
 - (e) 10月7日～11日 初めての試みとしてタイで商談会を開催、日本側から7社13名、タイ側から28社36名参加。商談会后、タイの日系・現地企業5社を視察
 - (f) 11月7日～12日 ISIC+台湾精密鑄造工場（9社）視察団を派遣
 - (g) 11月12日～15日 秋期非鉄情報交換会を兼て、台湾非鉄鑄造工場（4社）視察団を派遣（20名）
- (3) 展示会への出品の支援
- 次の展示会への出展を支援した。
- (a) 5月19日～22日 Metal China 出展支援 有志18社が出展
 - (b) 2015年6月16日～20日 GIFA 出展準備を支援、有志28社が出展予定

15. 知的財産権の保護及び推進に関する事項

鑄造技術に関する特許情報の収集に努め、鑄造ジャーナルに科学技術文献速報、特許情報を毎月掲載した。

16. 労働安全衛生に関する事項

鑄造業における安全衛生対策の推進のため、リスクアセスメントの普及活動として、4団体合同で研修会を開催した。

詳細は、1.(5) リスクアセスメント推進研修会を参照

17. 表彰に関する事項

(1) 協会賞の募集・選考・表彰

日本鑄造協会の協会賞として、12月に協会功労賞、経営改善賞、技術賞、技術開発賞、小林英三賞、滝沢賞を募集、3月に選考を行った。また、平成25年度に決定した下記受賞者の表彰式を5月の総会後に開催した。

(2) 協会功労賞

- ① 齊藤勝広氏（アイシン高丘株式会社）
- ② 芦澤亮夫氏（長野県鑄物工業協同組合）
- ③ 佐藤明三氏（福山地方鑄造工業協同組合）
- ④ 田中惣平氏（株式会社田中工業）
- ⑤ 竹中厚二氏（三井ミーハナイト・メタル株式会社）
- ⑥ 大岡信一氏（株式会社アイメタルテクノロジー）

(3) 技術賞

- ① 増田清治氏（株式会社マスセイ）
- ② 長谷川文彦氏（カクチョウ株式会社）
- ③ 山崎裕一郎氏（有限会社山崎鑄造）
- ④ 塩谷憲司氏（石川可鍛製鉄株式会社）

(4) 協会特別賞

- ① 奥山 進氏（ASK ケミカルズジャパン株式会社）

18. 広報、普及啓蒙及び情報資料の提供に関する事項

(1) 広報事業

- 1) 編集委員会を毎月開催し、機関誌「鑄造ジャーナル」を毎月、12回発行した。また、ホームページに鑄造ジャーナルの目次を掲載した。
- 2) 協会ホームページの会員専用ページとEメールを活用し、各種情報の迅速な提供を行い情報発信の強化を行った。
- 3) 新聞・雑誌等に業界PR記事の提供
報道機関に対する広報活動として、日本経済新聞、日刊工業新聞、鉄鋼新聞他の専門紙の担当記者へのプレスリリースを行い、資料の提供等取材に協力した。
- 4) 需要業界における各種調査研究資料の収集と提供を行った。
- 5) 経済産業省等関係官庁からの公報・情報収集活動と会員への提供を行った。
- 6) その他、業界発展のための広報・情報活動を行った。

(2) 普及啓蒙事業

- 1) 経営、技術および海外情報に関する相談業務
- 2) 新技術開発・新製品開発に関する紹介
- 3) 小中高生の鑄物工場見学受け入れ、鑄物教室開催等

(3) 情報の提供

- 1) 法律、制度並びに経営、技術、労働に関する情報の提供
- 2) 会員（賛助会員を含む）に関する情報の提供
- 3) 内外の関係情報の提供

19. 会員の催物に対する協力及び協賛に関する事項

- (1) 経営、技術、労務関係、教育図書、文献、視聴覚教育資料の斡旋
- (2) 工場視察、見学会の斡旋
- (3) 記念行事、催物の表彰状、感謝状の授与
- (4) 会員主催の行事、催物等への協賛及び参加

20. その他本協会の目的を達成するために必要な事項

- (1) 以上の他、定款の目的に沿った各種事業を行った。

V. 支部・地域活動、地方組織に関する事項

1. 東海支部活動

- (1) 支部総会を4月25日にウインクあいちにて開催（出席42名）、支部役員会を4月25日、11月21日、2月27日の3回開催し、併せて本部活動報告を2回実施。講演会は、総会時の講演会1回（参加者57名）、工場見学会は、7月4日に地区内見学会（参加者45名）、10月9~10日に地区外工場見学会（参加者26名）を開催した。
- (2) 支援事業として、11月8日に開催した東海鑄造技士会講演会に支部として協力した。さらに、日本鑄造工学会東海支部の講演会・工場見学会に協賛した。

2. 北陸支部活動

- (1) 支部総会を4月22日にホテル日航金沢にて開催（出席者28名、委任状11名）、支部役員会を9月11日、2月13日、の2回開催し、併せて本部活動報告を2回実施。講演会は総会時（83名）及び3月9日に工学会支部と共催で開催（出席者61名）、地区外工場見学会（滋賀方面）を10月10日に（参加者25名）開催した。
- (2) 支援事業として、3月9日に開催した若手技術者研究発表会には北陸鑄造技士会として参加（9名）。

3. 中国四国支部活動

- (1) 支部総会を4月18日にホテルセンチュリー21広島にて開催（参加者65名）、支部役員会を4月18日、11月26日、3月23日の3回開催し、本部活動報告を3回実施した。講演会は、総会時及び11月26日に開催（出席者71名）した。また、交歓会を11月26日

に開催した。

4. その他の地域活動

(1) 関東地区

11月21日(金)埼玉県及び川口鋳物組合主催の埼玉県鋳造技術コンクールの表彰式に協会賞を贈呈。

(2) 東海北陸地区

4月10～11日に平成26年度東海北陸鋳物工業会の例会に伊藤副会長が参加した。

VI. 関係官庁への協力に関する事項

1. 取引ガイドライン策定委員会への委員推薦

(1) 自動車産業適正取引ガイドライン策定委員会

平成26年8月に経済産業省自動車課による自動車産業適正取引ガイドライン改訂を行う自動車取引適正化研究会に、鋳造業界代表として木村会長が参加した。

2. 中央技能検定委員の推薦

中央職業能力開発協会に対して、専門調査員の推薦は無し。技能検定委員「鋳造職種(鋳鉄鋳物鋳造作業)」に6名、金属溶解(鋳鉄溶解作業)」に5名、「鋳造(鋳鋼鋳物鋳造作業)」に2名、委員を推薦した。

VII. 関係団体との交流に関する事項

1. 素形材関連団体連絡会

素形材に関する交流促進や普及啓発を議論し実施する場として、(一財)素形材センターが主催する素形材団体交流委員会に角田専務理事が委員長(任期2年間)として毎回出席した。

2. 鋳物関連団体への協力

- (1) (公社)日本鋳造工学会の春・秋季大会、各支部におけるセミナー、工場見学会を後援。
- (2) (一財)素形材センターの素形材月間事業(11月)への後援。
- (3) 島根県鋳造関連産業振興協議会総会(7月・松江市)に角田専務理事が出席し、平成26年度の当協会の活動概要を報告。併せて、同協議会が主催する初級講座開催を支援。
- (4) ダイカストマシン工業会主催のセミナー(2月)への後援。
- (5) 日本鋳物中子工業会の総会(11月・松山市)に角田専務理事が出席。
- (6) 木型工業会の50周年記念式典に谷口副会長が出席。

VIII. 会員及び組織に関する事項

1. 組織拡充強化に関する事項

- (1) 未加入の企業、組合の加入を促進した。
- (2) 本協会の目的・事業に協力いただく賛助会員の加入を促進した。

2. 会員及び組織に関する事項

(1) 正会員及び賛助会員（平成 27 年 3 月 31 日現在）

- 1) 法人正会員 364 社
- 2) 団体正会員 36 組合（512 社）
- 3) 賛助会員 40 社